

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	熊本市立力合中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	0	15	27
生徒数	161	173	183	0	517	

II 研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を身につけ、主体的に生きる生徒の育成をめざして  
～個を生かすきめ細かな指導と評価の工夫・改善をとおして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科等

① 補充的な学習の工夫

ア 「Nobiたい夢」の創設と活用

(7) 「Nobiたい夢」のねらいと名称

基礎・基本の定着を図るため、N = Now(今) o = outgo oneself(自分を越える) b = by(~で) i = individual(個々の力) … 「今、個々の力で自分を越える」という意味の頭文字を取り、「伸びたい」「タイム」などを重ね、「夢に向かって、自分自身を高めていこう」という願いを込めて名付けた。

(イ) 「Nobiたい夢」の位置づけ

表1 【Nobiたい夢の位置づけ】

A 週	月	火	水	木	金	B 週	月	火	水	木	金
1						1					
2						2					
3						3					
4						4					
5						5					
6	F					6	f		f	f	f

○教科・・・すべての教科の基礎となる国語・数学、国際化の視点から英語の3教科

○時間及び回数・・・1単位時間を25分、各教科20回ずつ年間60回

(ウ) 「Nobiたい夢」運用の基本構想

○国語・数学・英語を各学年別、同時間帯に実施

○国語・数学・英語の教科担当は、実施学年の指導、3教科以外の職員は、各所属学年の指導の補助

(エ) 具体的な実践 <25分間の流れ>

基本的な流し方を、①課題に取り組む=15分 ②取り組んだ成果をみる(テスト)=5分 ③活動を振り返る=5分(自己評価カード利用)とし、各教科の実態に応じて実践している。

表2 【「Nobiたい夢」の流れの例】

5分	10分	5分	5分
チェック テスト	Riki コース=ポイントを中心に覚える→テスト→自己採点・自己評価 (基本)		
	Go コース=全文を覚える	→テスト→自己採点・自己評価	
	Nobi プラスコース=会話文に続き創作英作文	→担当採点・自己評価	
	(発展)		

イ 「Nobi ポケット」(学習プリント用の棚) の設置と活用

(7) ねらい

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る
- 自ら学習する機会と場の提供する
- 学習の習慣化を図る

(4) 活用の4つの視点

- 自主学習を助ける  
学習プリントの内容を段階的な配列にすることで、生徒が自分の課題に応じて学習プリントを選択できるようにしている。

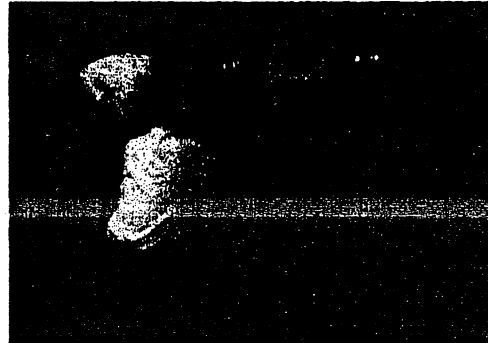


図1 【「Nobi ポケット」】

- 全職員で取り組む  
生徒たちが積極的に「Nobi ポケット」を活用できるよう、教科担当だけではなく教科と学年及び学級担任と連携を図りながら推進する。
- 共に学ぶ  
「Nobi ポケット」を置いている多目的ホールをはじめ、フレンドリースペース、談話コーナーを学習スペースとして常に開放し、いつでも学習したいときに友達と共に学び合うことができるようにしている。
- 公德心を育む  
1枚のプリントでも無駄にしない、みんなが活用するプリントであるという意識を持つことを大切にしている。

(7) 学習プリントの内容

国語・数学・英語科の学習プリントの内容と活用は、表3の通りである。

表3 【学習プリントの内容と活用】

	国語	数学	英語
内容 (プリント の種類数)	・常用漢字の問題(50) ・文法の問題(15)	全学年の全ての範囲から、教科書の各単元に 対応した基本問題(52)	「学びノート」と教科 書に沿った各単元の基 本問題(59)
活用	学習進捗の確認と達成 感を持たせるため、チ ェックシートに記入さ せている。	授業、「Nobi たい夢」 の学習を補うために活 用するよう声掛けをし ている。	「Nobi たい夢」で使う プリントに、その学習 と関連のある「Nobi ポ ケット」の問題番号を 記入しておくことによ り、「Nobi たい夢」の 補充学習として活用さ せている。

② 基礎・基本の定着の工夫

ア 聴きトレ（聴き取りトレーニング）

(7) 実践のねらい

ポイントを聴き取る力（「聴く力」）や、情報を整理しながらメモを取り、要約できる力（「メモ力」）を身に付けることにより、集中力を高める。

(1) 具体的な実践

○毎週火・木曜日の朝自習の時間、8時20分から8時25分までの5分間

○実施方法と教師の支援

①2分程度の課題の文章を放送で流し、聴きながらメモを取る。

②取ったメモをもとに、放送で流される5つの問いに答えを書く。

③自己採点后、自己評価表にコメントを書く。その際、次回につながるコメントを書くように指示をする。また、お互いにメモをした欄を見せ合い、多くの価値ある情報を入手するように指示し、「メモ力」の向上に役立つように心がけさせる。

○課題文の内容

生徒の興味・関心を引くような話題性のあるものを取り上げる。

話を聴くだけでも楽しくなるような課題文になるように配慮する。

(例)「ヤクルト誕生秘話」「琵琶湖北上説」「スワヒリ語講座」「リカちゃん人形のすべて」「ゴキブリロボット時代到来」など

③ 「確かな学力」を支える環境整備の実践

ア 手作りの「フレンドリースペース」の創設と活用

(7) ねらい

校舎1階部分のオープンスペースをいつでも自由に、学習や活動に活用できる場所として整備することによって、主体的に生きる生徒の育成を図る。

職員、生徒、保護者の共同作業により、ボランティア精神や豊かな心を育む。

(1) 創設の視点

○利用する人々に対して優しい空間

○利用する人々がお互いにふれ合いとくつろぎを感じることができる空間

○教育的意図をもった空間

○利用する人々の視覚に訴える空間

(7) 活用の実際

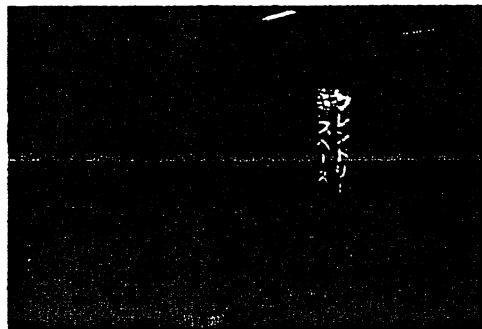


図2【フレンドリースペース】



図3【少人数指導】

④ 個に応じた指導の工夫

ア 数学

○2年生において、1クラスを2分割する少人数授業を実施している。学習集団の編成は、無作為抽出集団と習熟度別集団とした。

▽無作為抽出集団は、出席番号の奇数、偶数で分ける。各18名程度。

▽習熟度別集団は、集団A：28名程度、集団B：8名程度とした。

集団Bを進度が遅れがちな生徒とし、より個に応じた支援ができるようにしている。

○平成14年度

次の表のように、1学期にTT、無作為抽出集団での授業で実態把握を行った後、2学期以降は習熟度別集団での授業を行った。習熟度別の集団は、単元の事前テスト結果分析から生徒の希望を基に編成した。また、学習集団は単元ごとに変更した。

式の計算	…	TT
連立方程式	…	無作為抽出集団での授業
一次関数	…	習熟度別集団での授業

(反省点)  
 ▽習熟度別集団Bは、8名程度であったため、より手厚い支援ができた。多様な考えを出し合う学習は進めにくかった。  
 ▽单元ごとに学習集団が入れ替わったため、長期的な見方での指導ができにくかった。  
 ▽生徒の多くは、少ない人数での授業を望んでいたが、希望に応えることが難しかった。

○平成15年度

前年度の反省から、2年生全員に対して、個に応じた指導がさらに深められるよう、年間を通して無作為抽出集団での授業を中心に進めることにした。また、習熟度別集団での授業を単元の途中(学習した内容を補充・深化する場面など)に位置づけ、生徒の実態に即した指導が、よりできるようにした。

(例) 一次関数の指導計画

	学習内容	時間	編成
1	一次関数とは	2	均等割
2	一次関数のグラフ	4	均等割
3	グラフ補充	1	習熟度別
4	式を求める	3	均等割
5	方程式とグラフ	3	均等割
6	これまでの練習	1	習熟度別
7	一次関数の利用	4	習熟度別

イ 理科

○平成14年度まで

全学年とも、週1時間のTTを実施した。

▽主な役割として、実験や観察学習における補助、演示実験担当、実験観察の内容を分けて担当、個別指導の4点で取り組んだ。

○平成15年度

1年生に重点を置き、週3時間中2時間のTT、2年生は週1時間のTTを実施している。

▽従来通りの役割の他に、実験や観察を伴わない学習においても、座席表を利用した評価や工夫されたノートの取り方の指導などに重点的に取り組んでいる。

▽前年度までの実験・観察に主眼をおいたTTでは、前時までの生徒の反応や学習の流れなど把握できにくい面が多かった。週3時間のうち2時間のTTを担当できるように時間割上に位置づけたことで、毎時間の授業のつながりが明瞭となり、教材研究においても共同開発が容易となった。

▽生徒との関わりがより深くなったことで、きめ細かで適切な指導ができるようになった。

ウ 英語

○平成14年度

1年生において週2時間のTTを実施した。英語への興味・関心が高まり、授業を受けての達成感が表情に見られるようになってきた。

○平成15年度

1年生において、週3時間のTTを実施している。

▽指導の内容(話す力と書く力など)を分けて担当し、基礎・基本の徹底を図っている。

▽毎時間の目標に向かって、HOP・STEP・JUMPという段階的な行動目標を示し、一人一人を指導・評価している。

▽学習内容や到達度に応じて個別指導を取り入れ、生徒一人一人が活かされる指導をしている。

▽生徒同士が支え合い、一人一人が活かされるためのペアワークやグループワークを多く取り入れている。

エ 国 語

- 1年及び3年の授業で週1時間TTを実施している。
- ▽週1回、授業の最初15分間を使って短作文を書かせる。
- ▽担当の一人が中心となって課題を説明し、二人で机間指導を行う。
- ▽説明した担当者が作品を集め添削し、コメントを記入する。
- ▽次時の始めに返却、指導し、それぞれの作文ノートに整理させる。

(2)年次ごとの計画

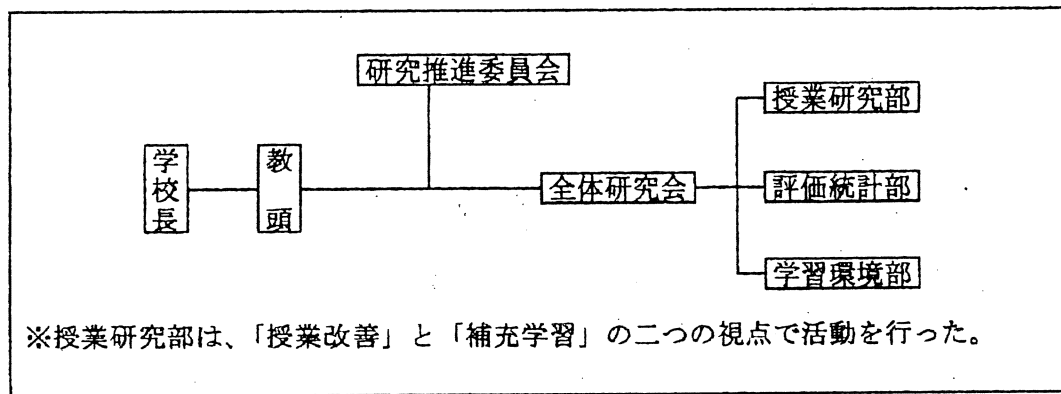
平成 14 年度	<p>○テーマ 「確かな学力」を身につけ、主体的に生きる生徒の育成をめざして ～個を生かすきめ細かな指導と評価の工夫・改善をとおして～</p> <p>○研究の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程において、指導過程の工夫や指導方法・形態の工夫を行えば、確実に基礎・基本が定着していくであろう。</li> <li>・ 具体的評価規準を設定し、生徒一人一人の成長が見える客観的、長期的な評価方法を工夫・改善していけば、個に応じた指導がきめ細かになり、生徒の学習意欲を高めることができるであろう。</li> <li>・ すべての教育活動の中で、生徒一人一人が自分の思いや考えが述べられる場、人と実際にコミュニケーションをよりよく行おうとする場を設定し、継続的な活動をしていけば、表現力やコミュニケーション能力が身につくであろう。</li> <li>・ 生徒一人一人が成就感や存在感を味わえるような環境や集団づくりを工夫すれば、生徒一人一人の個性が生かされ、安心して教育活動に参加できるであろう。</li> </ul> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習の心得」の設定と徹底</li> <li>・ 少人数指導やチームティーチング</li> <li>・ 本校研究テーマに関して視点を絞った研究授業及び授業研究（教科の枠を超えた研究）</li> <li>・ 基礎・基本の定着を図る教育課程の工夫</li> <li>・ 絶対評価についての研修会と実践</li> <li>・ 評価規準を入れた年間計画の作成及び運用</li> <li>・ 生徒の「生きる力」に関する意識調査</li> <li>・ 基礎・基本定着のための学習棚の設置</li> <li>・ 「学びノート」の活用（国・数・英）</li> <li>・ 教室設営の工夫</li> <li>・ 生徒の活動する場を設定した朝の会、帰りの会の工夫</li> <li>・ 生徒の活動の様子がわかるコーナーの設置</li> <li>・ 小中連携</li> <li>・ 「振り返り」カードの活用</li> <li>・ 先進校視察による研修</li> <li>・ 「総合的な学習の時間」のスキルブックの作成と活用</li> </ul>
----------------	---

平成 15 年度	<p>○テーマ 「確かな学力」を身につけ、主体的に生きる生徒の育成をめざして ～個を生かすきめ細かな指導と評価の工夫・改善をとおして～</p> <p>○研究の仮説</p> <p>仮説1 教育課程において、指導過程の工夫や指導方法・形態・評価などの工夫を行えば、確実に基礎的・基本的内容と「つけたい力」が定着していくであろう。</p> <p>仮説2 生徒一人一人の成長が見える評価の方法を工夫したり、自己評価・相互評価などの評価活動を繰り返し、生徒自身の評価力を高めることによって、主体的に生きる生徒が育成できるであろう。</p> <p>仮説3 教育環境の整備において、ハード面とソフト面の両面から改良・改善を行えば、「確かな学力」を支えることができるであろう。</p>
----------------	--

	<p>○研究内容・方法</p> <p>①「つきたい力」を意識した指導過程の工夫</p> <p>②補充学習の時間「Nobiたい夢」の創設と活用</p> <p>③学習プリント用棚「Nobiポケット」の設置と活用</p> <p>④少人数指導、TT等による個に応じたきめ細かな指導の工夫</p> <p>⑤生徒自身の評価力を高めるための工夫（自己評価・相互評価）</p> <p>⑥「評価を指導に生かす」ための工夫</p> <p>⑦ハード面の整備</p> <p>ア 「フレンドリースペース」の設置と活用</p> <p>イ 教室設営の工夫</p> <p>⑧ソフト面の整備</p> <p>ア 「学習の心得」（学習の規律）</p> <p>イ 「振り返りメモ」</p> <p>ウ 「聴き取りトレーニング」</p> <p>※昨年度の内容を焦点化し、「本校らしさ」を強調できる特色ある取り組みについて実践を深めることにした。</p>
--	--

平成 16 年度	<p>○テーマ</p> <p>「確かな学力」を身につけ、主体的に生きる生徒の育成をめざして ～個を生かすきめ細かな指導と評価の工夫・改善をとおして～</p> <p>○研究の仮説</p> <p>仮説1 教育課程において、指導過程の工夫や指導方法・形態・評価などの工夫を行えば、確実に基礎的・基本的内容と「つきたい力」が定着していくであろう。</p> <p>仮説2 生徒一人一人の成長が見える評価の方法を工夫したり、自己評価・相互評価などの評価活動を繰り返し、生徒自身の評価力を高めることによって、主体的に生きる生徒が育成できるであろう。</p> <p>仮説3 教育環境の整備において、ハード面とソフト面の両面から改良・改善を行えば、「確かな学力」を支えることができるであろう。</p> <p>○研究の内容・方法</p> <p>平成15年度の実践内容を引き続き推進する。本年度の成果や課題を踏まえ特に検証のあり方、評価のあり方について研究を深める。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

平成14年度10月と平成15年度7月に行った「生きる力」（ベネッセ文教総研）のアンケート結果は次の表の通り。（H. 14. 15の数字はa:とてもあてはまる、b:ややあてはまるの合計の%表示。備考の数字は、ベネッセ文教総研による数字）

		項 目			H14	H15	備考
能力	調査研究力	1	いつも新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている	41	51	45	
		2	自分の苦手なことにもチャレンジしようとしている	50	66	57	
		3	自分の体験から調べたいことを見つけすることができる	41	58	41	
		4	見通しのある活動計画を立てることができる	38	63	36	
		5	インタビューやアンケートなどの方法で調べることができる	38	57	34	
		6	調べてわかったことをまとめることができる	73	82	60	
		7	調べてわかったことから自分の考えを持つことができる	70	79	62	
		8	ものごとを、すじみちを立てて考えることができる	51	67	46	
	コミュニケーション力	9	初対面の人や大人ともきちんと会話することができる	69	79	65	
		10	自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができる	49	59	42	
		11	意見のちがう人とも協力することができる	57	67	57	
	情報活用力	12	インターネットで目的に応じた情報を集めることができる	50	71	49	
		13	電子メールなどで、他の学校の人や地域の人とやりとりができる	29	44	28	
		14	コンピュータを使って、レポートをまとめることができる	30	44	29	
		15	コンピュータを使って、発表をすることができる	18	43	20	
		16	コンピュータやビデオ・本・カメラなどを使い分けすることができる	43	62	44	
		17	インターネットで調べた事を他の資料で確認したことがある	25	34	17	
社会への適応力	社会適応力	18	ニュースや新聞で、最近の社会の出来事をよく知っている	62	73	75	
		19	外国の文化や人々の暮らしについてよく知っている	33	43	39	
		20	水や空気、ゴミなどの環境問題について知っている	45	56	48	
		21	コンピュータ社会の問題点を知っている	20	46	27	
		22	健康を守るためにどうしなければならないか知っている	77	83	76	
		23	地域の自然・くらしや歴史などの特徴について知っている	43	45	42	
		24	社会の出来事について家族や友達と話し合ったことがある	46	67	42	
		25	外国の文化や人々の暮らしについて調べてみたことがある	51	63	52	
態度・価値観	共生的態度	27	友達一人ひとりのよいところを探そうとしている	64	77	67	
		28	障害を持つ人を手助けする方法を知っている	33	47	44	
		29	お年よりや障害を持つ人に手をさしのべたことがある	46	50	43	
		30	地域の活動や行事に進んで参加している	19	30	40	
	自律的態度	31	人のために役立つことをするよう心がけている	54	67	69	
		32	課題や自分の役割を最後までやり抜くようにしている	73	79	76	
		33	学校や社会のルールを守り、マナーを大切にしている	76	85	74	
		34	環境のことを考え、物を大切にしている	62	68	52	
		35	いらいらしているときでも、人の意見を冷静に聞くことができる	36	50	39	
		自己成長力	自己認識力	36	自分のことが好きである	56	53
37	自分にできることや向いていることが何かを知っている			70	70	60	
38	自分がまわりの人から認められていると思う			29	39	25	
生き方の構想力	39		将来つきたい職業がある	67	69	69	
	40		将来つきたい職業に向けて具体的な努力をしている	48	57	47	

- ・ 「つきたい力」を意識して指導してきた結果、どの項目においても、生徒は自分の伸びを認識している。
- ・ 少人数指導やTTについては、場所の確保や指導形態、評価等の工夫・改善が進み、生徒が授業に対して集中して取り組むようになってきた。
- ・ 全職員が指導に関わることによって、学力向上に対する共通認識が高まった。
- ・ 「Nobi たい夢」では、短時間で流れがはっきりしているため、生徒が集中して意欲的に取り組むことができた。
- ・ 授業や定期テスト・漢字大会等との関連を図ることによって、学習の深まりが見られるようになった。
- ・ 「Nobi ポケット」は、「Nobi たい夢」との関連により、自己の課題克服のため多くの生徒が、積極的に活用している。
- ・ 「Nobi ポケット」の活用が進むにつれ、社会科と理科の「Nobi ポケット」設置の要望が生徒から出され、9月から社会科を設置し、理科は現在準備中である。
- ・ 自由に利用できるようにしているため、他学年の問題に取り組むことができています。
- ・ 「聴きトレ」の継続により、授業中のメモの取り方や日常生活でも聴く姿勢などに明確な変容が見られる。

(生徒の感想より)

以前、家にかかってくる電話を取って、あとでお母さんに伝えようと思いつながら忘れていた。でも今は、聴き取りトレーニングがあるようになってから、伝言を上手に覚えて伝えられるようになりました。

- ・ 「フレンドリースペース」は、観葉植物やラティスなどを配置し、手作りの椅子やテーブルとの調和を図ることによって、本校のシンボリックスペースとして親しまれている。昼休みや放課後の自主学習の場、語らいの場となっている。
- ・ 「フレンドリースペース」を整備し活用する中で、ものを大切にする心や美しさを保とうとする心など、豊かな心が生まれ、朝のボランティア清掃などまさに「環境が人をつくる」の具体例となっている。

## 2. 今後の課題

- ・ 一つ一つの実践内容の検証結果をより明確にしなが、実践の深化を図る。
- ・ 「Nobi たい夢」では、生徒の習熟度に合わせたよりきめ細かな指導のあり方を追究する。
- ・ 「Nobi たい夢」の内容を、3年間の系統性・計画性のあるものとし充実を図る。
- ・ 「Nobi ポケット」においては、学習棚の拡充とともに、生徒の実態に応じた系統性のあるものに充実させていく。
- ・ 「聴きトレ」をさらに充実、発展させるために、システムの改善を図るとともに、他の教育活動への広がりを検討する。
- ・ 「学校全体が学習環境である」という基本的な考えのもとに、「フレンドリースペース」をさらに整備し、拡大を進める。

## IV 学力把握のための学校としての取組

### ○定期考査の実施(年7回実施)

- ・ 目的：各教科における基礎・基本定着の確認
- ・ 実施内容：既習事項の問題
- ・ 時期：6月、9月、10月、12月、1月、2月

### ○3年生の実力テスト

- ・ 目的：2年生までに学習した基礎的・基本的内容の確認
- ・ 実施内容：国語、社会、数学、理科、英語の既習事項の問題
- ・ 時期：7月、9月、11月

### ○標準学力テスト

- ・ 目的：前学年で学習した基礎的・基本的な内容の確認
- ・ 実施内容：教研式標準学力検査
- ・ 時期：4月



- 「生きる力」に関するアンケート
  - ・目的：生徒の生きる力に関する意識の変容を診る
  - ・実施内容：ベネッセ文教総研のアンケート
  - ・時期：各年度の途中
- 自己評価
  - ・目的：生徒が自分の学習への取組を振り返り、その後の学習に生かす
  - ・実施内容：各授業での評価カード、授業ノート、ワークシートへのコメント記入
  - ・時期：各授業時、各活動後

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年11月14日（金）に、研究発表会を開催。県下すべての小中学校に実施要項を送付し、県内外から250人程度の参加があった。本校の特色ある実践について、「全教科の授業」「生徒発表」など生徒や職員の様子を公開し、多くの示唆をもらった。
- 本年度、県内外から20回を超す研修視察を受け入れ、実践内容について紹介し、情報提供を行っている。来年度も積極的に研修視察を受け入れ、本校の実践を紹介し、多くの意見をもらう方向で研究を進める。
- 熊本市教育論文を提出並びに熊本県研究成果の集録集へ、本校の具体的な取組を紹介した。
- 近隣小学校へも本校取組を紹介し、小中連携を深めている。

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                   7～9学級                         10～12学級  
                                   13～15学級                       16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T、Tによる指導  
                                   その他
- 【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                   外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                   保健体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無